

## 第9回

# 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会

日 時：令和6年2月2日（金）

13：30～

場 所：丸森町役場 303会議室

## 次 第

- 1 開会
- 2 報告
  - (1) 第8回検討部会の意見と対応
- 3 議事
  - (1) 防災拠点としての機能
  - (2) 防災と災害伝承について
  - (3) その他
- 4 閉会

資料－1 配席図

資料－2 第8回検討部会の意見

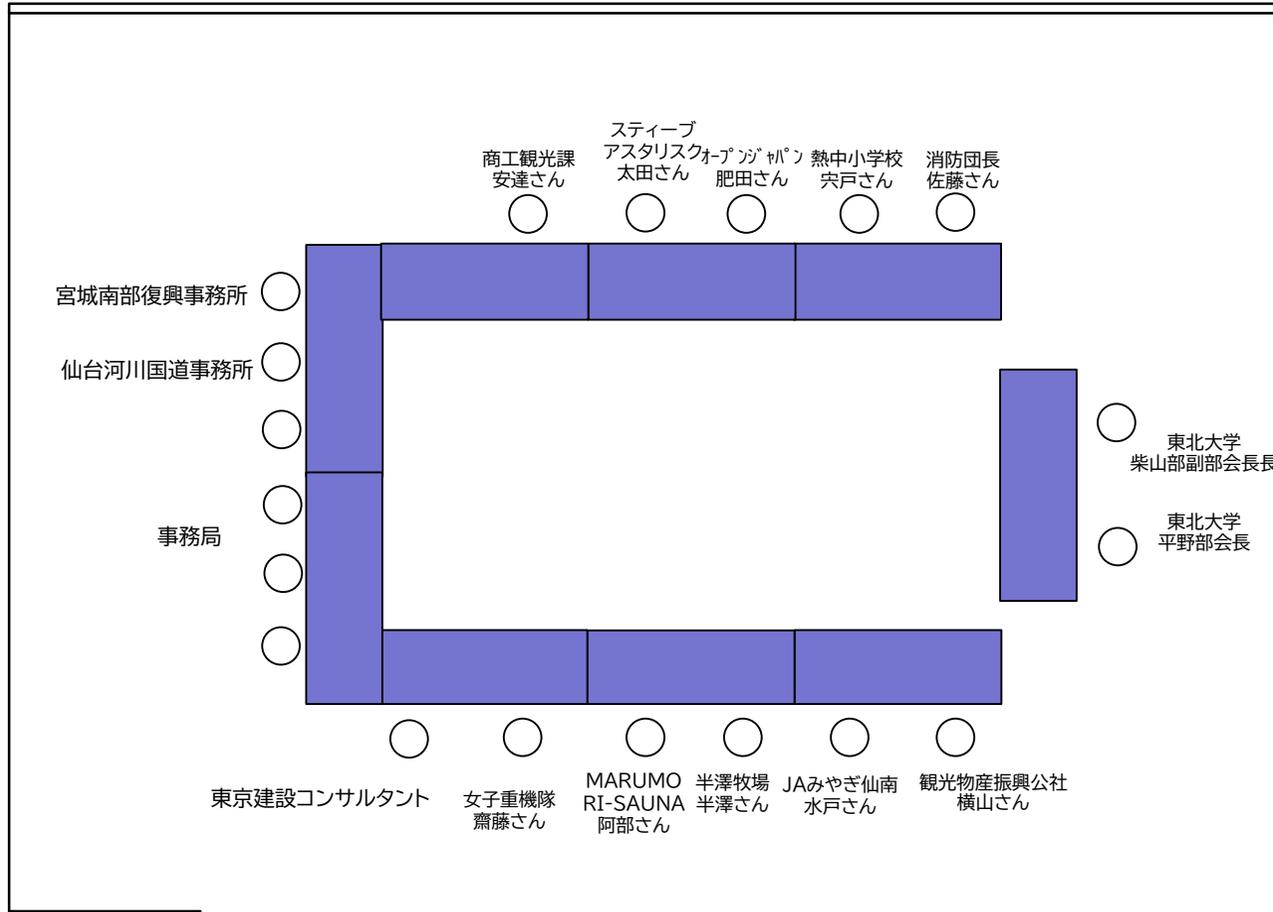
資料－3 第9回検討部会説明資料

丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会 名簿（令和5年度 第7回～）

No	団体名	所属等	氏名	備考
1	東北大学	災害科学国際研究所准教授	平野 勝也	
2	東北大学	災害科学国際研究所准教授	柴山 明寛	
3	丸森町観光物産振興公社	理事長	横山 博昭	
4	丸森町商工会	副会長	船山 俊一	
5	丸森町消防団	団長	佐藤 隆	
6	熱中小学校 丸森復興分校 (元仙南地域広域行政事務組合)	教頭 (消防長)	穴戸 克美	
7	オープンジャパン	副代表	肥田 浩	
8	まるもり女子重機隊		斎藤 百合子	
9	MARUMORI-SAUNA株式会社 (株式会社 伊具緑化)	代表取締役	阿部 秀一	
10	(有) 半澤牧場	代表取締役社長	半澤 善幸	
11	J Aみやぎ仙南	丸森地区事業本部長	水戸 慎太郎	
12	丸森町商工観光課	課長補佐	安達 勉	
13	株式会社フードスタジオマンマ (MARUIMORI CAFE)	代表取締役社長	中津川 かおり	
14	株式会社スティーブアスタリスク	代表取締役社長	太田 伸志	

# 資料1 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会(防災) 配席図

会場:丸森町役場 3階 303会議室



入口

資料 2

第 8 回 (2023 年 12 月 25 日) 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会の意見(その 1)

対応欄 赤字：主に丸森町、青字：主に国土交通省

大項目	小項目	意見	対応
1. 河川防災ステーションの施設レイアウトについて	(1)資材置場関係の整備方針	【根固めブロック等の保管方法】 ○山形県にある河川防災ステーションではブロックが土中に保管されていたが、緊急時の対応が難しいと思われる。以前はそのような保管方法でよかったものなのか。	○現在では緊急時の利用面を考慮して地上保管が主流であり、閑上もそのようにしている。(国交省)
		【植栽樹種と植樹方法】 ○水防に資する樹種については国交省で植えるのか。 ○植栽樹種や配置は建築デザインとの関係で決めるべき。今日の意見(主に以下 3 点)も含め、施工時に現場対応で調整を行いたい。 ・列植になっている部分は根上がり防止の対策をしておくべき。 ・スギよりもケヤキなどの方が良いように思う。 ・土塁のところでアイストップとなる箇所の植樹は一直線とせずに千鳥等とすべき。	○水防に資する樹種については河川防災ステーション整備の一環で施工する。R6 施工予定。(国交省)
		【デザインの方向性】 ○全体で一体として境目が見えない施設にしたい、建物の外構との調整をしながらの微修正が必要となる。 ○シームレスにデザインを調整したいので、材料指定を含めて同じ資材を使うような工夫が求められる。	○設計段階、施工段階で都度調整、対応が必要(国交省、町)。
(2)その他	○車両交換場所から左方向の道について、法面があるのであれば法面記号を記入しておくべき。	○記入する。(コンサル)	
2. かわまちづくりについて	(1)阿武隈ライン舟下りに関して	【船着場の形状等について】 ○階段護岸の勾配が緩すぎると舟の舳先を接岸し難くなり乗降に支障が生じる。 ○水の流れがある箇所であることから、このままでは舟を止められない。水制を出すよりも引き込む形とした方が良い。 ○階段の延長の決定理由はあったか。 ○バリアフリーの坂路を階段に併設させること。 【航路の浚渫について】 ○大橋の橋脚の下流にあるでっばっている石を掘削して欲しい。航路のための掘削はできるのか。	○舟が着岸できる勾配を再度確認する(コンサル)。 ○流速を抑えて、かつ堆砂が起きにくい形状を検討する(コンサル)。 ○階段延長の設定について整理する(コンサル)。 ○階段内のバリアフリー坂路併設を検討する(コンサル)。 ○要相談である。(国交省)
	(2)フットパスについて	【鳥屋館の河岸沿いの通路について】 ○歩行者専用として栈橋形式にできないか。 ○じゃかごやふとんかごはあり得るか。じゃかごやふとんかごでも植生が繁茂すればそれほど変ではないことから、コンクリートブロックを張ることは除外して今後検討して欲しい。 ○ここの石は軍艦石といっておかしい石であり、大橋からも見えることから、残した方が景観的に良く、埋める話はないと思う。 ○以前はここに沈床(木工沈床※1)が並んでおり、この地域の人「ツンショウ」と言っていた。 ○河岸沿いのルートは季節によっては上のルートよりも良い時期がある。 ○河川区域界はどのあたりに入っているのか。 ○幅員 1 m では落石や転落等の危険性があり、3 m では広くて景観上問題がありそうである。皆で現地を見て考えたい。 【左岸の眺望広場について】 ○眺望広場として無造作に四角い広場を図に表記するようなことはせずに、もう少し地形にすり合わせてデザインするような配慮をして欲しい。 【鳥屋館の上(神社裏)の現状のルートについて】 ○今のコースも使わないのはもったいない。ロケーションがとれるように樹木の整理を行えば最高のものとなる。 ○鳥屋嶺神社は平安時代からの神社であり、神社の後ろから入る道筋にはオカメザサが並んでおり魅力的である。上のルートと下のルートの両方があれば選択肢ができて良い。 【丸森橋上流右岸の眺望広場について】 ○ここは町で何か整備を行うのか。	○河川管理用通路なので栈橋形式は難しい。(国交省) ○じゃかご、ふとんかごもあり得るが、景観上の配慮から玉石のようなものを想定している。(国交省)  ○河川区域界を確認する(コンサル) ○現地確認の場を設けて確認する(コンサル)  ○図面を修正する。(コンサル)  ○第 6 回検討部会後に現地を見て選奨土木遺産の碑を置く場所としたところである。民地であり、整備内容はこれからの検討となる。(丸森町)

※1・・・議事の中では平野先生より粗朶沈床か、との発言もあったが、露出している状況が視認されていたことから木工沈床である可能性が高いと推察(コンサル)

第8回（2023年12月25日） 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会の意見(その2)

対応欄 赤字：主に丸森町、青字：主に国土交通省

大項目	小項目	意見	対応
2. かわまちづくりについて	(2)フットパスについて	<p>【まちなかフットパスについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々なルートの可能性についても全体図の中に赤線等で記入しておいて欲しい。</li> <li>○「廿六員当彼岸」の石碑は、1769年の阿武隈川の洪水のときに26名亡くなった時の伝承石碑で、その周りを偶然8個の猫碑が囲んでおり、知っている人は「ああ、いいな。」と見るところである。</li> <li>○小路を歩くことがフットパスの原点であり、帰りのルートとしてまちなかを歩くルートはショッピングルートとして魅力的なものになる気がしている。</li> <li>○丸森橋から左岸へ行くのもありだし、丸山城跡のほうを通るものもある。それでもメインが一番古い道を歩くのが一番楽しそうである。</li> <li>○河川防災ステーションからのまちなか周遊に関しては商工会の皆さんも関心を持っており、商工会との意見交換や齋理屋敷のような観光交流施設の方達との意見交換の場も設けていきたい。</li> <li>○意見交換は大切であるが、陳情の場にならずによりうまく活用していくムードにして欲しい。</li> <li>○まちなかのルートは複数の線としておいた方が良い。ただし、お勧めルートとして集約しておかないと、観光客からは不親切に見えてしまう。</li> <li>○齋理屋敷の2階にある一日のライティングが変化するジオラマはとても魅力的なものであり、見てから町場を歩くとまた味が出てくる。そういったものをピックアップしてもっと出せると良い。</li> <li>○お勧めの道を濃くし、枝道を薄い線としていくつも示しておくなど、いろいろな人、事業者が関与できるような素地をつくり、町全体に回遊が広がるようにしていきたい。</li> <li>○商工会でお弁当を売り出し、お弁当を買って百々石公園に登って食べるというような、ソフト面とのセットのプログラムも入ると良い。</li> <li>○防災ステーションでがっちりした食事を出すのか、食べ歩き可能なファストフードのようなものがあるのか、さらに季節毎のメニュー等も含め、商工会の皆さんで議論しながら詰めて欲しい。</li> <li>○ランチは一つの例であるが、お土産開発とか回遊の仕掛けなど商工会と一緒に考えていきたい。</li> </ul>	
3. 防災と災害伝承について	(1)取り組みの紹介	<p>【官民共創次世代リーダー育成研修についての紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東京のウィル・シード社とMARUMORI-SAUNAが伴走するような形で、防災について企画提案をさせていただいた。提案内容の詳細は割愛するが、自分の身をどう守るか、防災のスキルをどう楽しく学ぶか、最終的には防災フェスタのようなイベントを実施する、といった流れ。まずは既存イベントの中で実施していく等、できることから進める。これからチームづくり。</li> </ul>	
	(2)防災ステーションに必要な機能について	<p>【必要な機能について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ポンプ車庫にホースの乾燥塔をつけて欲しい。屋外でホース5～6本を干せると良い。</li> <li>○これを見せるか隠すかの考えも検討が必要である。</li> </ul> <p>【訓練場所としての活用方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○訓練の場所としては、傷つけないことを前提としてヘリポートなども活用されると良い。</li> <li>○内川と阿武隈川合流点の三角形の土地については、訓練には一番良い場所となり、臨時駐車場としても活用できそうなので、土地の利活用について検討して欲しい。砂利敷きや舗装などとしていただけると活用方法が広がる。</li> </ul> <p>【薪ステーションについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○町の木の利用ということで以前は薪ステーションの話があったが今は消えてしまっている。薪の備蓄があればいざという時も火をおこせる。薪の備蓄は、資料に残しておいていただきたい。</li> <li>○薪ステーションがあり、河川で焚火が可能であれば、火起こし体験、バーベキュー、デイキャンプ、本格的に泊まるなら不動産を案内する、といったアウトドアフィールドの入り口にできる。バーベキューセットの貸し出しができると、災害時にも自分達でつくれるよね、と繋がっていく。</li> </ul>	<p>○建築の基本設計の中で考えて行きたい。(丸森町)</p> <p>○合流点の土地は、計画を検討中。結論はもう少し待っていただきたい。(国交省)</p> <p>○当初、水防資材の隠蔽で薪を重ねて置くという案があったが、運営する民間事業者の方で薪を商いでできれば良いと考えており、今の図からは消している。(丸森町)</p>
	(3)防災学習等について	<p>【対象について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○町民を主、町外を従とあるが、防災対応でこういう文言はあまり言わない方が良いのではないかと。障がいがある人などの要配慮者を含めて防災全般を考慮していることが大事である。</li> <li>○次に来る大地震や津波災害にも対応できる前線基地として謳っても良いのではないかと。</li> <li>○キャンプ場で防災学習を楽しくやれたように、この施設でも楽しく防災を学べると良い。</li> <li>○この施設ができることで様々な主体と一緒に訓練を行い易くなるのが大事である。</li> </ul>	<p>○外をないがしろにしている訳ではなく、住民がしっかりやらないければ外からも見に来ないということで住民が主、という意味。また、固定展示をなるべく避けているいろいろなテーマ出しをしていくところが重要だと思う。(柴山副部会長)</p>

第8回（2023年12月25日） 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会の意見(その3)

対応欄 赤字：主に丸森町、青字：主に国土交通省

大項目	小項目	意見	対応
3. 防災と災害伝承について	(3) 防災学習等について	<p>【トレイルとの連携】</p> <p>○神明神社はハザードマップ上で安全な区域。トレイル計画にそういう防災の視点も入れると良い。</p> <p>【ゲームの活用】</p> <p>○風水害24というオンラインゲームを先日体験したが、臨場感のあるものであった。そういったハラハラした気持ちの中で体験できるところがあると良い。</p> <p>○アプリも維持費の問題があることから、修学旅行生などをターゲットとしてここに来て防災を学ぶ、というような仕組みができると良い。</p> <p>【アウトドア体験での学習】</p> <p>○松島のキボッチャのように体験しながら、ちょっと楽しみながら防災力を高められるところがあると良い。子供たちは体験型でやらないとなかなか覚えてくれないものである。</p> <p>【着衣水泳】</p> <p>○内川に飛び石をつくり、仕切り板を入れて1mくらいの水深を確保し、本物の着衣水泳ができるようにすれば、町外からも人を呼べるのではないか。</p> <p>【展示制作について】</p> <p>○防災部分の展示について、映像制作などどこかのタイミングで誰かにお願いすることになるが、どのくらいの期間を考えれば良いか。(丸森町)</p>	<p>○着衣水泳、バーベキューや火起こし等、そういった生きていく術を学ぶものができると思う。(柴山副会長)</p> <p>○基本コンセプトから考えて良いものをつくるとなると、大体1年くらいではないか。(柴山副会長)</p>
4. その他	(1) 竹灯り回廊の駐車場について	<p>○昨日終了したが、去年の倍くらいの4,182人が来た。一番困ったのが駐車場であり、来年の今頃にはこの防災ステーションの土地を駐車場として使用できないか。</p>	<p>○工事中であり難しい。(丸森町)</p>
	(2) 施設の運営等について	<p>【施設の運営について】</p> <p>○防災関係の運営は知識のある人でないとできないと思うが、実際に誰が運営していくのか。</p> <p>○スケジュールに指定管理者の公募とあるが、公募の仕方は決まっているのか。</p> <p>○テナントを先に決めてしまうと指定管理する側の足を引っ張る可能性がある。指定管理者自らがテナント募集をかけて契約を結ぶ方が動き易いのではないか。指定管理者にテナントとセットで手を挙げてもらえれば公募は一回で済む。</p> <p>【販売する商品について】</p> <p>○物販コーナーにおいて直売所と競合しないものとはどのような方向性か。</p> <p>○一次産品以外だと、例えばお菓子も八雄館や他で買えるし、それ以外ということであれば、アウトドアグッズとか、そういったものはあるかもしれない。</p> <p>○そういう丸森に関連性のあるものは賛成である。</p>	<p>○建物自体は指定管理者にお願いすることになるが、防災部分の運営や研修、フットパスなどについてはいろいろな人たちに関わっていただきたいと考えており、既存の団体やNPO法人など、協力をいただきながら回せる仕組みを今から整理していきたい。(丸森町)</p> <p>○運営協議会がつくれる話になると思う。(柴山副会長)</p> <p>○建物の基本設計が固まって店舗面積等が示せるようになってからの公募になると考えている。(丸森町)</p> <p>○それでは指定管理者の公募要件が重くなりすぎると考えている。(丸森町)</p> <p>○何を売るのかも含めて今後一緒に考えていきたい。(丸森町)</p> <p>○公社の舟下り以外は公募になる。(丸森町)</p> <p>○それもあって良いと思う。あるいは例えば町内で売っていないシーラカンスモナカをここだけの独占販売店舗にしてもうなどもありかと考えている。(丸森町)</p>
	(3) その他		<p>○来月の検討部会は、防災学習関連を予定する(丸森町)。</p>

以上



令和6年2月2日  
丸森町・国土交通省 東北地方整備局仙台河川国道事務所

## 防災拠点として諸室等の機能

諸室の名称	災害・防災用途
ポンプ車車庫 120㎡以上 町防災センター 171㎡（消防車含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水ポンプ車（全長10.5m以下） 1台</li> <li>可動式排水ポンプ 1台</li> <li>排水ポンプ 150mm × 3台</li> <li>排水ポンプ 100mm × 2台</li> <li>車庫上部に資機材を積み降ろしするためのクレーン</li> <li>排水ポンプのホース乾燥塔（外）</li> </ul>
水防資材スペース 45㎡以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>シート類、ロープ類、管類、パイル類の他、土のう袋、針金、スコップ、ツルハシ、掛矢、鉋など</li> <li>資材格納用の棚</li> </ul>
艇庫 40㎡以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>全長6m程度の大型ゴムボートを含む小型船舶を数艇収容</li> <li>消防ゴムボート 3艇（船外機付き2艇）</li> <li>ジェットスキー 1艇</li> <li>カヌー等 数艇</li> </ul>

### イメージ






水防資機材整備・確認

品名	土	ガ	ビ	木	木	鉄	ア	ス	ツ	ベ	播	ノ	タ	カ	オ	ハ	ボ	救	ト	一	排	可	大	土	備					
	の	ラ	ニ	板	板	板	ル	コ	ル	ン	ノ	コ	タ	マ	ノ	ン	ート	命	ン	排	動	ハ	の	備						
土のう袋	6,200	100	4	82	20	50	14	195	306	40	98	21	21	28	7	13	57	49	17	20	3	3	44	9	17	2	6	3	3	10
参考	6,450	100	0	80	20	50	14	195	306	31	104	21	21	29	7	13	57	49	17	20	3	3	29	9	17	2	6	3	3	10

調査日 令和5年6月25日

作業従事者

1	2	3
---	---	---

7W-シート  
 3k×4k  
 5.2×9.1 = 65枚  
 3.6×5.4 = 9枚  
 5.4×5.4 = 8枚



諸室の名称	災害・防災用途	イメージ
備蓄庫 75㎡以上 役場 庁議室 66.2㎡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急救助物資、非常用食料等を備蓄</li> <li>・</li> </ul>	  <p>気仙沼市防災物資集積配送基地 ミドリ安全いわき支店の「防災モデル展示」</p>
水防団待機室 45㎡以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時の水防団の待機室として利用の他、平常時の活動拠点として利用</li> </ul>	
シャワー室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害活動時に水防団が利用</li> </ul>	
防災学習室 150㎡以上 役場 302会議室 98.8㎡ 大会議室 151.6㎡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常時は防災学習室及び展示施設として利用</li> <li>・ 平常時に展示室として機能する部分と会議室部分とに分割して利用できるよう可動間仕切りを設置</li> <li>・ 水防活動実施時には指令室として機能する。                          大型モニター                          インターネット (W i - F i)                          テーブルとイス</li> </ul>	<p>せんだい3.11メモリアル交流館</p>  

諸室の名称	災害・防災用途	
水防団作業場所（アトリウム）  200㎡以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時の水防活動の作業場所として使用</li> <li>・ 荒天時に有効活用できるよう屋根付きの空間として配置</li> </ul>	 <p style="text-align: center;">道の駅 かくた</p> 
自家発電設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 停電時に運用可能な自家発電設備や太陽光発電設備を設ける。</li> <li>・ 役場庁舎：ディーゼル発電機（130kVA）+太陽光（80kw+54kw）+蓄電池（50.4kw+11kw）</li> <li>・ 新雨水ポンプ場：ディーゼル発電機（750kVA）</li> </ul>	
貯水槽及び給水機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 断水時に一定期間利用可能な貯水槽を設置</li> <li>・ 給水車へ給水を行う給水機を設置</li> </ul>	 <p style="text-align: center;">奈良県葛城市 貯水槽</p> 
機材洗浄スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水防資機材や船舶等の洗浄を行うためのスペースを利便性に優れた箇所に配置</li> </ul> <p>※現場で作業をした重機、資機材は泥まみれ。作業が終わると、全て水洗いをして、作業が終わる。泥を流す枡としては、この枡では小さいとの事。もっと大きいものが必要で、さらに二層式の枡がいーらしい。一層目には泥がたまるので、溜まったら、泥は重機ですくいあげて使用する感じ。ただし、平常時はボウフラがわくので注意とのこと。他の重機洗い場など参考にする必要あり。</p>	 <p style="text-align: center;">石田沢防災センター</p> 

諸室の名称	災害・防災用途	
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常時の駐車場として、普通車30台、大型バス10台分程度を確保</li> </ul>	
EV充電スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EV車用の充電スペースを2台分設置（屋根付き）</li> <li>・ 蓄電池式か急速充電か？</li> </ul>	 <p>蓄電池式超急速EV充電器 (株式会社パワーエックス)</p>
防災用井戸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 断水時に使用可能な防災用井戸を設置</li> <li>・ 使用する用途     平常時もトイレに使用？</li> </ul>	
イベント時拡張スペース（緊急時避難者用駐車場）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な機能は？</li> </ul>	

## (1) 防災学習と災害伝承の基本的な考え方

- ①住民が同じような被災をしないことを前提とし、住民を主、町外を従とする。
- ②小中学校の防災学習（授業）の場として利用する。
- ③展示場所は、災害時の指揮所として利用を想定し、可動式の空間とする。
- ④防災に関するワークショップや会議・研修の場として利用する。

「地域連携型防災体制等構築推進事業」における実践推進協力校の試み（令和3年度・令和4年度・令和5年度）



丸森未来防災フェスタの様子1



丸森未来防災フェスタの様子2

### ■「丸森未来防災フェスタ2023！」令和5年11月10日（金）

5・6年児童が11グループに分かれてテーマごとに発表しました。

参加者：地域住民、保護者、区長様  
 助言者：学校防災アドバイザー 柴山明寛様  
 国土交通省宮城南部復興事務所  
 国土交通省仙台河川事務所角田出張所  
 町役場建設課、町役場消防防災班  
 町危機管理専門官

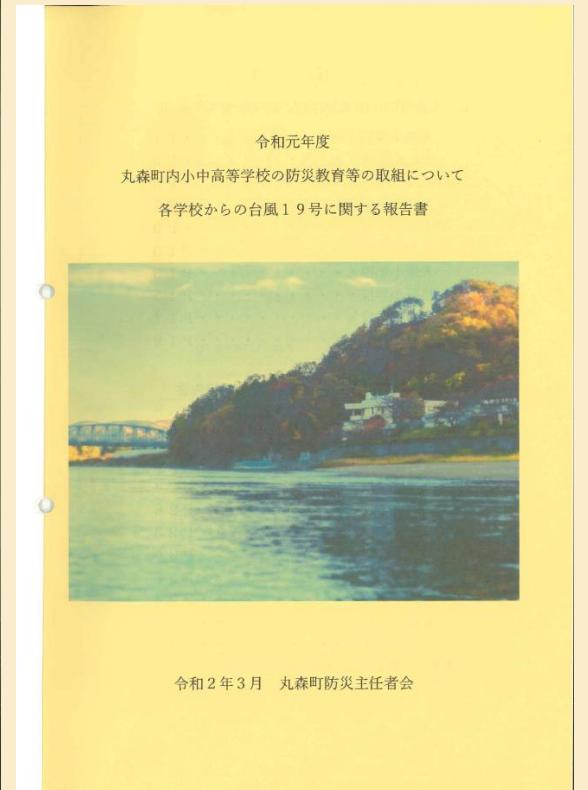
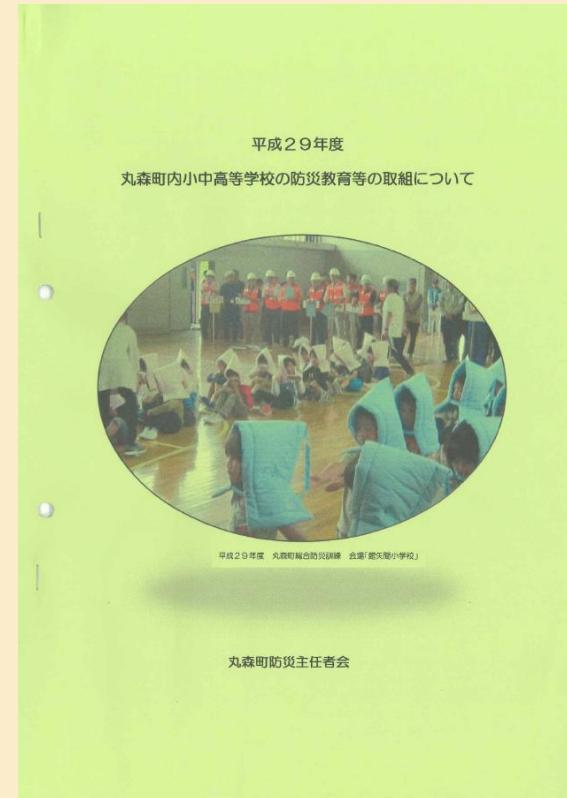
内容：災害時の情報の集め方  
 普段から使える防災グッズ  
 避難所に行く前にすべき行動  
 台風が来る前に備えられる防災グッズ  
 災害がくる前の備え  
 地震を想定したマイタイムラインの発表  
 地震を想定したマイタイムラインの発表  
 水害を想定したマイタイムラインの発表  
 火災を想定したマイタイムラインの発表  
 火災・雪害を想定したマイタイムラインの発表

○全グループがタブレット端末使用。



## 防災主任者会

町内の小・中・高校の防災主任を中心に組織する会議体



令和4年度 ぼうさい甲子園 はばたん賞

(<http://bousai-koushien.net/1846-2/>)

令和5年度 ぼうさい甲子園 奨励賞

## (1) 防災学習と災害伝承の基本的な考え方

- ①住民が同じような被災をしないことを前提とし、住民を主、町外を従とする。
- ②小中学校の防災学習（授業）の場として利用する。
- ③**展示場所は、災害時の指揮所として利用を想定し、可動式の空間とする。**
- ④防災に関するワークショップや会議・研修の場として利用する。

## (2) 展示のポイント

- ①令和元年東日本台風災害のポイントをわかりやすく展示（説明）
- ②小中学生の防災学習の成果を「手作り防災展」として展示
- ③災害を体験した住民の声を、映像等で伝える（残す）
- ④デジタルを活用した展示（大型モニターの設置）

### 防災学習展示品（宮城南部復興事務所 制作）



防災学習用DVD



防災学習用立体地図

### 大型モニター



東北大学災害科学国際研究所の1F エントランスホールにある大型モニター。アーカイブ映像等を見ることが出来る。

### 災害時の指揮所



台風19号時の館矢間まちづくりセンターのホール

### 防災学習展示の事例(せんだい3.11メモリアル交流館)



## (1) 防災学習と災害伝承の基本的な考え方

- ①住民が同じような被災をしないことを前提とし、住民を主、町外を従とする。
- ②小中学校の防災学習（授業）の場として利用する。
- ③展示場所は、災害時の指揮所として利用を想定し、可動式の空間とする。
- ④防災に関するワークショップや会議・研修の場として利用する。

### 防災ワークショップ等

**仮** 楽しみながら防災を学ぼう

# まるもり防災フェスタ

不動産キャンプ場  
12月6日

★1日の流れ★

- 10:30 不動産キャンプ場
- 10:40 イベント説明
- 11:00 VR・重機体験
- 11:30 防災備品紹介
- 11:40 防災クッキング&アレンジ
- 12:10 防災焚火トーク
- 12:50 終了

丸森版 防災メモ  
イベント開始時に「防災メモ」をお配りしています。ぜひ空き時間に記載いただき、有事の際の避難場所を確認しておきましょう。

非公式LINEアプリ  
丸森町非公式LINEアカウントになります。友達になって使用感についてご意見をください。

運営元  
まるっともりあげ  
防災チーム

令和6年  
**1.23 (火)**  
13:10~16:20 (12:45開場)

市民みんなで考える防災

東北大学災害科学国際研究所  
第36回防災文化講演会

オープニングイベント 13:10~  
● 中學生・高校生ポスターセッション  
● 地域・企業のポスター展示

基調講演 13:50~  
「災害に強いまちづくり」  
～防災エッセイコンクール(CS)をきっかけに～  
東北大学災害科学国際研究所  
教授 佐藤 健 氏

防災の最新発表 14:30~  
「合衆国における防災の取組みについて」  
有限会社村伝 代表取締役 村上 浩之 氏

パネルディスカッション 15:00~  
「災害に強いこれからの  
新潟のまちづくりについて」  
● ファシリテーター  
東北大学災害科学国際研究所  
准教授 佐藤 明雄 氏  
● コーディネーター  
中學生・高校生・企業・地域団体・行政

講師  
東北大学災害科学国際研究所  
准教授 佐藤 健 氏

主催：気仙沼市・気仙沼市教育委員会  
共催：東北大学災害科学国際研究所・気仙沼ESD/RCE推進委員会  
【お電話からのお申し込み・お問い合わせはこちら】  
気仙沼市総務部危機管理課 防災安全係  
Tel：0226-22-3402 Mail：kikikanri@kesenuma.miyagi.jp 申込締切日 令和6年1月12日(金)まで

### 防災訓練（消防演習・水防訓練）



### 総合防災訓練



## (3) 防災とアウトドア

①「防災」だけでなく、「アウトドア」と連携した取り組みを進める。

### KIBOTCHA (東松島市)

#### ・子供防災教育キャンプ

初日 集合

導入教育・館内案内、昼食  
 防災教育（実技）  
 防災マップ作製  
 大高森研修  
 B B Q & キャンプファイヤー

二日目 地震発生から津波避難指示の伝達・避難体験、避難

所：おさとうやま

朝食  
 漁業体験、農業体験のうち一つ  
 防災教育、火起こし・浄水体験による炊飯と食時  
 保命法  
 解散

#### ・社員研修 スケジュール例

初日 集合

導入教育・館内案内  
 防災食を食べてみる  
 防災教育  
 防災マップ作製  
 大高森研修  
 料理長が腕を振るう自慢の宴会コース（2時間飲み放題）  
 又は BBQ

二日目 地震発生から津波避難指示の伝達・避難体験、避難所：

おさとうやま

朝食  
 漁業体験、農業体験のうち一つ  
 防災教育、火起こし・浄水体験による炊飯と食時  
 保命法  
 語り部のお話  
 解散



**参加親子募集!**  
**防災サバイバル**  
**キャンプ**  
 2021

**親子で楽しく防災スキルをアップ!**  
 もしもの時に備えて今、学んで体験する1泊2日  
 自分の町で災害が起きてライフラインが止まり屋外で過ごすことになったら…必要になるのは？  
 サバイバルや防災のプロに学んで、力を合わせて「命を守る」力を身につけよう。

**期日 10月16日(土) AM 9:00~**  
**17日(日) AM 10:40 雨天決行**

**場所 水の森公園キャンプ場**  
**スポパーク松森フットサルプラザ**

**プログラム**

- 自衛隊員による体験活動▶
- 自衛隊員に聞く防災のお話▶
- 応急処置や救命法について知ろう▶
- 火起こし体験 浄水体験▶
- サバイバル飯づくり▶
- 防災食品体験▶ など

**対象** 仙台市在住の小中学生と保護者10組（1家族4名まで、計35名まで）  
 テント及びキャンプ用品一式を持参できるご家族

**参加費** 1人5000円程度（実費）  
 会場費・食材費・体験活動費・保険料 他

**申込** 当法人HP より  
 先着順を優先しますが人数調整のうえ決定します

**持ち物** 宿泊可能なテント及び キャンプ用品  
 1日目の昼食（弁当）他  
 申し込み・持ち物等の詳細は裏面へ

**主催** 一社）三陸&東海防災フォーラム伝  
**協力** 陸上自衛隊多賀城駐屯地 第22即応機動連隊  
 貴志亭 株式会社 KIBOTCHA スポパーク松森フットサルプラザ  
**後援** 仙台市教育委員会（申請中）  
 Hapi'mas こども学心舎 イタチカハ  
 がんこーディネートくりにつく ヴォスクオーレ仙台  
 (株) オーライ いただきますだの会 (こども救急) 贈不問